



4月17日(火)に全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行われた「平成30年度全国学力・学習状況調査」の調査結果が文部科学省から提供されました。

結果を活かし、今後改善を図っていくために、学校としての主な課題とその改善策等をあわせてご報告させていただきます。今年度は、国語科と算数科に加えて理科も行われました。なお、6年生児童一人一人の結果につきましては、お子様を通じて保護者の方へお渡しいたしました。

《出題の内容》

【主として「知識」に関する問題（以下、「知識」を問う問題）】

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題

【主として「活用」に関する問題（以下、「活用」を問う問題）】

知識・技能等を実用生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題

《教科の結果》

国語

- 国語Aと国語Bは、全体として概ね良好でした。
- 昨年度に引き続き「書くこと」の領域では、「自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える」ということに課題が見られました。
- 5年生の時から「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」の領域は良好でしたが、今年度も同じ領域の中にある「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く・読む」の問題は概ね良好な結果が見られました。

算数

- 算数Aについては、多くの領域で良好でした。また算数Bでは概ね良好な結果でした。
- 今回の調査では算数Aの「図形」という学習指導要領の領域では、「直径の長さとお円の長さの関係について理解している」という項目で、良好な結果が見られました。
- 算数Bの「数量関係」の領域において、「示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる」の項目で、課題が見られました。

理科

- 理科は、概ね良好な結果でした。
- 「調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できる」や「ろ過の適切な操作方法を身に付けている」では、良好な結果でした。
- 記述で答える解答や「活用」に関する問題に、課題が見られました。

《児童質問紙調査の結果》

本校の児童の特徴のある項目を紹介します。

- ① 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」や「学校のきまりを守っていますか」との問いに「あてはまる」と答えた児童の割合が高い。
- ② 「人の役に立つ人間になりたい」と思っている児童の割合が高い。
- ③ 今住んでいる地域の行事に参加している児童が多い。
- ④ 「朝食を毎日食べていますか」という問いに、毎日食べていると答えた児童の割合が低い。
- ⑦ 「理科の勉強は好きですか」という問いに、「当てはまる」と答えた児童の割合が低い。

《今後の改善策》

今回の調査結果を受け、本校では、今年度も引き続き「思いを伝え合い高め合える子どもたち」を目指した取り組みを続けていきたいと思っております。今後以下のように力を入れて指導していきたいと考えています。

- ☆すべての教科で「思考力・判断力・表現力等」を育成するために「読んで 考えて まとめながら書く」という言語活動の充実を図るようにする。
- ☆自分の良さを知り、前向きな姿勢で何事にも取り組めるように、自己肯定感を高めるような励ましの言葉をかけていくようにする。
- ☆放課後の「がんばり教室」で既習の内容を振り返る学習を取り入れ、基礎基本の定着を目指す。
- ☆ご家庭との連携のもと、家庭学習の充実をめぐるようにする。
- ☆生活面でも、「生活アンケート」等で児童の様子を把握し、児童が様々な活動に取り組む中で達成感を味わうことができるよう指導を続けていきます。また、学年だよりや懇談会等で児童の様子を発信することで保護者の方とも協力連携できるよう努力していきます。